

# 緑 ネット通信

No.73

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆  
 年会費：1000 円  
 口座番号：00170-9-696174  
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

## 外来生物って?? 意外と知らない? 子どもたち「嫌いにならないで!」 & 大人のできること

夏休み期間中の子どもたちは植物・昆虫に触れ合う機会がぐんと増える。そんな最中、目にはするけれども、よくわかっていない外来生物をテーマにした小学生向けのセミナーが開かれた。自然解説員の説明を受けながら、公園内を自然観察し、座学で外来生物の様々な様子を学んだ。

セミナーを担当した自然解説員は最後に、外来生物を嫌いにならないでと訴えていた。子どもたちが大人になっても持ち続けて欲しい、未来につながる大きなテーマだと思った。



### 小学生の自由研究に的を絞る徹底ぶり

7月28日21世紀の森と広場で小学生を対象に「生きものセミナー」が開かれた。夏休みの自由研究のテーマにも最適!と広報まつどで募集、18名の子どもたちが参加した。主催した松戸市環境政策課はかねてより、環境や生態系についてのセミナーを一般向けに毎年開催し、好評を博している。

今年で3回目となる小学生セミナーは、夏休みの自由研究に的を絞り、まとめ報告用のひな型も添えられ、心配りの行き届いた企画になっていて、セミナー参加が自由研究のひとつになる構成だ。

昆虫に詳しい室智大さん、植物に詳しい池田駿さんが途中交代して自然観察した。「みどりの里」のゾーンは、左手に斜面。スギ、ヒノキ、ケヤキなどの高木、シラカシ、スダジイなどの亜高木から低木、つる植物、草本類が群落をなしている。草本類・地衣類が豊かで、生きものる里として群落が形成されている。

外来生物対象のセミナーという、生きものを目の前にじっくり観察するスタイルかと思ったが、公園内を観察し、身近な生きものたちの中に外来生物があるということを知り易く話していたのが印象に残った。

### 人の手により運ばれた外来生物

21世紀の森と広場といえば、過去にテレビ番組で池の水をすべて抜き、外来生物を取り出す企画で全国に名を広めた。

今回のセミナーで子どもたちが学んだのは、外来生物は人の手によって運ばれ、入ってきた生き物を指し、カダヤシ、ウシガエル、アカボシゴマダラなどの特定外来生物、セイタカアワダチソウ、アメリカザリガニ、ミシシippアカミミガメなどの旧要注意外来生物、マングースなどの侵略的外来種、ヒガンバナ、コマツヨイグサ、ヒメオドリコソウなど公園内に咲いている花も旧要注意外来生物のほかに帰化植物として整理されているものもある。外来種が在来種に及ぼす影響は在来種を食べる、住環境を奪う。在来種との交雑により雑種を作るなどだ。

夏休み企画としてたくさんの生きものに出会う観察会はいくつもあるが、外来生物を悪者扱いせず「嫌いにならないで」という講師のメッセージに目の覚める思いがした。予想を大きく覆す中味で外来生物を見る目が変わる内容だった。

外来生物のセミナーは一般向けにもぜひ企画してもらいたいイベントだ。  
 (藤田隆)

## 私たち大人が出来ること

自然保護の観点から、つい「外来生物＝悪」のような認識をもってしまうがちだが、大人として私たちが取るべき正しい行動は何だろう？身近なところではどんな外来生物が問題になっているのだろうか？「松戸市環境政策課 外来生物」で検索してみた。

HPでは市内で見られる外来生物や環境省指定の特定外来生物を紹介しており、駆除の仕方や目撃情報の提供も呼び掛けている。一度見ておき、もし目撃した時は駆除や情報提供をして、市内の自然を守りたいものだ。ただし似た植物も多いので、誤報も多いとのこと。図鑑でよく調べたり、詳しい人に見てもらおうと良いと思います。（渋谷孝子）



オオキンケイギク

5月から7月に花を咲かせる。よく似た園芸植物が多いので見分けには注意が必要。深く切れ込む葉に特徴がある。



アメリカオニアザミ

葉に触ると危険なトゲがある。子どもたちが遊ぶところでは早めに刈り取ってあげたい。秋には種子が風で飛び増える。

# 《 なつ トピックス 》

## 竹に花 協働進む「松戸みどりと花の基金」と応援団 ヤマユリ

藤田 隆

### 淡竹（ハチク）に花が…

みなみの森で淡竹が開花して枯れ始めたという一報を聞いたのが5月のはじめでした。6月20日、確認したところ幹、枝、葉ごと黒褐色に変色し、頭頂部から弓なりに湾曲した姿の淡竹が覆いかぶさるようになっていました。活動報告によると4月6日には淡竹の開花が報告されています。

竹の花が咲くと竹林が枯れると言われています。竹は日本国内で300種あるといわれ、そのうち淡竹はモウソウチク、マダケとは別の種類です。細身で幹の厚みが薄く茶筌のような工芸品の材料として利用されています。

7月6日、里やま応援団では枯れた淡竹の除去作業を行おうと有志27人により枯れ竹伐採作業を行いました。

伐採した竹は松戸みどりと花の基金から借りたチップパーを使って粉碎処理を行いました。雨上がりで湿度が高く、竹の葉についた雨粒が時々チップパーのご機嫌を損ねることもりましたが見違えるほどきれいになりました。



処理に利用したチップパーはこの春、同基金が導入したもので、6月24日里やま応援団の皆さん対象にチップパー取り扱いの講習会

を行いました。

粉碎した竹チップは森内の散策路や広場、農園資材の利用のほか、乳酸菌を含み、農作物の生育に効果的として利用する農家もあるようです。



### あさがお展 <sup>あんどん</sup> 竹の行灯仕立て

松戸市金ヶ作育苗圃では8月5日～9日まで同基金の「あさがお展」が開催され、植物好きの市民が訪れました。

展示の中でも目を引いたのがアサガオの竹の行灯仕立て。松戸里やま応援団樹護の会が製作に協力したもので、毎年訪れる常連の皆さんにも好評でした。



## 松戸里やま活動地植物一覧 報告

渋谷 孝子

これは担当の寺田さんが、横浜の日本大通りの花壇で、竹を編んだ飾りにクレマチスを絡ませていたのを見てヒントを得たといいます。試行錯誤を経て完成させたものですが、試作から始めて 12 鉢を仕上げるのに延べ 1 週間ほどかかったというのですから、大作です。

花灯籠のようで、アサガオ展に花を添えた格好になりました。「基金」のアイデアと樹護の会の協力の賜物でした。

### もうひとつの目玉、変化アサガオ

アサガオは薬として中国から持ち込まれたもの。江戸時代に朝顔ブームがあり、「変化朝顔」が生まれました。葉が細く切れ込んだり、八重咲になるなど、これがアサガオかと驚くほどでした。



### 大輪のヤマユリにビックリ

7月11日、芋の作の森でヤマユリ観賞会が行われました。今年もたくさんのヤマユリが咲き、観賞に訪れた 18 期里やまボランティア入門講座修了生、東葛しぜん観察会の皆さんは、大輪に咲くヤマユリに顔を寄せては香りを嗅ぎ、森全体を見渡して、「この森を整備しているの？すごいね」と感心していました。今年の開花は例年の 3 分の 1 の少なさと説明を受けても、草丈を超えた大輪のヤマユリに包まれているかのように見え、ファンタジックな不思議さも感じられました。

芋の作の森は市内 18 か所の森と比べると植物の種類が多く、カシワバハグマ、ラン類が群生し、季節ごとに花の詳しい説明を掲示板に貼り出す丁寧さで里やま応援団でも知られています。

この日も季節は早いだろうと思われるコウヤボ



ウキが開花していました。

### 経緯

市川市で里山保全ボランティア団体の持っている植物のデータをまとめた表が届きました。松戸市の里やま活動は近隣の里山ボランティア活動の牽引役だと自負してきたのですが、他市の良いことは積極的に見習いたいと考え、佐竹さんらに相談、とりあえず現在各森の持っている記録を、市川市に倣って松戸市でもまとめてみようということになりました。調査記録と言っても、私たち素人の行ったことで、森によって調査のやり方も記録様式も様々なため、それらのマトメも迷いながらの作業でした。(表は応援団 ML で流しました。なお希少種保護の観点から、この表は広く公開することはしません。取扱いにご注意ください。)

### 植物一覧の意義

表は学術的な何かが読み取れるようなレベルのものではないのは明らかです。ただ、地元の植物リストが手元にあることで、植物調査は苦手な会でも、少しは植物が見分けやすくなるかもしれません。また、活動の初期で調査したままの森が、再調査してみようという動きに結びつくかもしれません。

ほかの森(あるいは市川の森)で確認されている植物で見逃しているものが見つかったり、自分の森の植物が実は市内では希少なのだと気づいたりするきっかけになるかもしれない・・・などと期待もしています。

### 千葉大学園芸学研究所・園芸学部の小林先生からコメントを頂きましたので紹介します

このようなデータは植物相の記録ということになります。植物相の変化は長い時間をかけて見ていかないとわからないので、皆さんで記録をとっていくことは有意義だと思います。そうした記録の中から、都市化の状況や管理の仕方による貴重種や外来種の消長が見えてくるでしょうし、将来的には温暖化の影響が読み取れて来るかもしれません。さらに広域でデータが集約されると、絶滅危惧種管理や外来種管理等の貴重なデータになります。

留意点としては、植物の同定を正確にすることが第一なので、時折り、団体共同で勉強会を行ったりしてはいかがでしょうか。新しい外来種情報を得たり、分類の仕方の変化なども共有できると思います。学ぶ教える

の楽しさを味わうという利点もありますし、いざというときに協力するきっかけが作れると思います。最上なのは標本もそろえていくことですが、これは保管管理が難しいので、行政の仕事と考えた方がよいでしょう。

個々の活動内のことでいうと、貴重種や外来種に関しては、敷地内の分布も記録をとっておくと、管理の有用な資料になります。

小林達明(千葉大学教授)

### 緑のネットワーク情報

- ・5月8日み・どりーむ秋山(秋山駅前の緑化に取り組む市民ボランティア)の応援作業一段落。
- ・6月17日石みやの森に園児ら55人。森散策とジャガイモ掘り。
- ・6月秋山の森 タシロラン(絶滅危惧種)が咲いた(写真)
- ・6月26日(土)秋山の森 小学校3年生59名が、校外学習でモウソウ竹の伐倒を体験した。
- ・6月30日(水)七夕プロジェクト 秋山の森で応援団有志によりマダケを30数本切り出し、みどりと花の課により31施設に配布した。毎年喜ばれている。
- ・里やまボランティア入門講座 18期生が希望する森を訪問・活動体験中。
- ・8月22日のうさぎの森にボランティア体験の子ども&大人が7名が訪れた。
- ・秋山の森で8月24日竹伐採、8月27日 幸谷放課後児童クラブで竹ぽっくり作りに応援団が指導・協力
- ・8月28日石みやの森で地域活躍塾塾生受け入れ
- ・関さんの森では 6月~7月保育園児が里山体験に訪れ、小学校1年生、3年生が自然観察会。8月27日東邦大学の教職課程の学生17名のフィールドワーク受け入れ。
- ・オープンフォレストin松戸 10月16日~24日で各森がオープンします。詳細はチラシをご覧ください。



### ~しぜんのコラム 49~

## ウスバキトンボ

かつて小金高校の中庭でビオトープを実践していた頃のこと。夏の終り頃、水泳部の生徒が「プールにヤゴがたくさんいて、ヤゴと一緒に泳いでいる」と言う。さっそく網でプールの水をすくうと、たくさんのヤゴに加えてミズカマキリまでもが見つかった。小金高校のプールもビオトープ状態だったのである。

ヤゴは、ウスバキトンボであった。ウスバキトンボは産卵数が多く、卵は早ければ1ヶ月で成虫になる。予算不足で水道水の補給を節約し、塩素も切れた小金高校のプールだからこそ、ウスバキトンボのヤゴが異常繁殖したのである。



ウスバキトンボ 2021.8.24 (21世紀の森と広場)

さて、ウスバキトンボはその名の如く翅が薄い。からだは他のトンボより軽く、飛翔力が強い。昼間はほとんど休まずに飛び続け、ひたすら餌を捕る。休むときは写真のようにぶら下がってとまる。

松戸では7月頃に現れ、8月になると急に個体数が増えるが、やがて姿を消す。寒さには弱く、やがて卵までもが死滅する。冬も生き残れるのは南九州以南だ。翌年は、暖かくなると、世代をくり返しながら北上。関東には7月、東北には8月、北海道には9月頃に到達するが死滅。それが毎年のくり返しで、無駄なように思えるけれど、そんな分布範囲を拡げる努力が、ウスバキトンボの繁栄を支えている。

(山田純稔)

### ★松戸のみどり再発見ツアー56(観察学習会71)

**「市ざかいに残る豊かな自然を訪ねる」になりました。**

松戸市との市ざかい、市北にならないので、残念ながら延期することになりました。緊急事態宣言が解除にならないので、残念ながら延期することになりました。松戸市との市ざかい、市北にならないので、残念ながら延期することになりました。森の再発見ツアーと樹木・野草・森林を差し上げますので、ご了承ください。実施の時はご連絡を差し上げますので、ご了承ください。身近なみどりを楽しみましょう。

10月13日(水) 9:30~12:30 (小雨実施)

集合:北総線大町駅

参加費300円(会員は100円)

申し込み・問い合わせ

090-4078-3703(藤田)